

# 小施策評価シート (平成28年度実績評価)

施策コード	4	施策名	健康づくり・医療の充実		
小施策コード	4-1	小施策名	健康の保持増進		
小施策 主管課等コード	069200	小施策 主管課等名	健康増進課		
評価責任者名	工藤 弘幸		内線番号	691-6220	
評価シート作成者名	小田島 晃子		内線番号	691-6220	

## Step 1 施策目標の達成状況

まちづくり指標	目指す 方向	単位	25年度 実績 (当初値)	27年度 実績	28年度 実績	31年度 目標値	36年度 目標値
3大死因*1の死亡率(人口10万対年齢調整死亡率*2)*3	↓	割合	225.6	213.7	-	223.3	221.1
まちづくり評価アンケート調査「身近に健康について相談できる人がいる」と答えた市民の割合	→	%	90.8	90.8	84.7	90.8	90.8
まちづくり評価アンケート調査「いつでも受診できる医療機関がある」と答えた市民の割合	→	%	90.9	89.8	86.5	90.9	90.9

(↑: 数値を上げていくことを目標とする指標, ↓: 数値を下げていくことを目標とする指標, →: 数値を維持することを目標とする指標)

\*1 3大死因

悪性新生物, 心疾患, 脳血管疾患のこと。

\*2 年齢調整死亡率

人口構成の異なる集団間で比較するために, 死亡率を一定の基準人口にあてはめて算出した指標である。

\*3 平成28年度の実績値は, 30年3月に公表予定。

## Step 2 小施策の全体像

### 小施策の概要等（構成事業は別紙ロジックモデルシートのとおり）

対象（誰（何）を対象として行うのか）	意図（対象をどのようにしたいのか）
市民	健康を保つ活動が行われている。
現状と課題	市民の健康増進を図るため、市民自らが生活習慣を改善して発病を予防する「一次予防」と、健康診査・がん検診など、受診により病気の早期発見・早期治療を進める「二次予防」に重点をおいた取組が必要である。
取組の方向性	心身ともに健康を保持し、生涯を健やかに暮らすことができるように、生活習慣病の早期発見と予防のための各種検診のほか、健康教育や訪問指導などの地域に密着した活動を推進して、市民が主体的に健康管理や健康増進に取り組める環境づくりを進める。

## Step 3 小施策指標の推移

小施策の指標	目指す方向	単位	25年度実績 (当初値)	27年度実績	28年度実績	31年度目標値	36年度目標値
健康教育参加者数	→	人	7,996	9,330	8,444	8,000	8,000
がん検診受診率	↑	率	22.1	22.3	23.1	40.0	40.0

（↑：数値を上げていくことを目標とする指標， ↓：数値を下げていくことを目標とする指標， →：数値を維持することを目標とする指標）

## Step 4 市民ニーズの把握

- 27年盛岡市主要死因別疾患は、第1位 悪性新生物、第2位 心疾患、第3位 脳血管疾患となっている。また、第1位の悪性新生物部位別でみると肺がん（気管・気管支含み）、大腸がん、胃がんが多くを占めている。  
以上を踏まえ、生活習慣病の予防に取り組むとともに、がんの早期発見と早期治療のため各種がん検診受診率の向上について取り組んでいく必要がある。
- 28年度盛岡市まちづくり評価アンケートにおいて、「身近に健康について相談できる人がいる」の回答結果は、「いる84.7%」、また「いつでも受診できる医療機関がある」と回答結果は、「ある86.5%」と高い比率を維持している。そのためにも引き続き施策を推進していく必要があると考えている。
- 健康で健やかに過ごすことは、誰もが願うことであり、市民一人一人が「自分の健康は自分で守る」という意識をもって積極的に健康づくり取り組むことが重要であると認識していることから、市民と協働で健康づくりを推進していくことが重要である。

## Step 5 役割分担分析

### 1 各主体の役割の状況

		役割の内容	役割分担比率 (%)
各主体の役割の状況	市	法に基づく事業であり、公平性・公益性を求められる事業のため盛岡市が主体的な役割を担うこととしている。	60
	国・県・他自治体		
	市民・NPO	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民自ら健康を保つ活動に取り組む。</li> <li>保健推進員及び食生活改善推進員は、地域の中で健康づくりの機会を提供していく。</li> <li>検診については、委託先である医師会等との密接な連携のもと、今後も事業の推進を図る必要がある。</li> </ul>	40
	企業・その他		

### 2 今後の市の役割の比重の方向性とその理由

- 市の役割の比重を拡大していくことを検討する  
 現状維持（現在の市の役割の比重を維持する）  
 市の役割の比重を縮小していくことを検討する  
 （理由）

健康寿命の延伸を目的とした第2次もりおか健康21プランの推進にあたり、地域に密着した活動を通し、市民が健康づくりをすすめるために、関係機関と連携し実施することが必要であり、市が中心となり、つなぐ役割を担っていくため、現状維持となる。

## Step 6 前年度に分析した課題・改革改善案に対するアクション

### 1 平成28年度に分析した問題点・課題に対する改革改善案

- 健康ポイント付与等の健康づくりに向けたインセンティブの提供について、他自治体の例や関係課からの情報収集などを行い、施策化の可能性を検証していく。
- 建物及び設備機器の総合的な修繕計画を作成する。

### 2 1の改革改善案の実施状況

（A：着手済、B：平成29年度に着手（予定含む）、C：未着手または見送り）

改革改善案	具体的な取組（予定）内容	状況
健康ポイント付与等の健康づくりに向けたインセンティブの提供について研究する。	経済企画課と連携し、健康づくりに関する事業について健康ポイント付与を実施した。	B
建物及び設備機器の総合的な修繕計画を作成する。	公共施設保有最適化・長寿命化計画に基づき計画的に保全に努める。平成28年度は、保健所外壁東・北面補修補強工事を行った。	A

### 3 2で挙げた取組状況がCの場合、その原因

## Step 7 成果・問題点の把握

### 1 成果の把握と要因分析及び課題の設定

#### (1) 小施策の中で成果をあげた点

- ・ 成人健康診査事業  
29年度がん検診受診者平均受診率は、23.1%と前年度22.3%に比べ微増となった。  
胃がん個別検診については、エックス線と内視鏡検診の選択導入により、胃がんの受診者数は増加した。
- ・ 余熱利用健康増進センター管理運営事業  
28年度の施設利用者数は、266,506人に上り、前年比2.4%の増加となり過去最高を記録した。このことから、市民の健康増進に大きく寄与したといえる。

#### (2) 成果をあげた要因

- ・ 成人健康診査事業  
胃がんエックス検査以外に胃がん内視鏡検診を導入し、受診対象者を拡大することにより、胃がんの受診者数は増加した。成人健診受診勧奨については、バスの吊り下げ広告の導入、公用車にPRステッカー貼付し保健活動を行うなど周知方法の工夫を行った。
- ・ 余熱利用健康増進センター管理運営事業  
指定管理者が、長年の運営管理の経験をもとに様々な創意工夫をこらし、利用者に対するきめ細やかなサービスや人気のあるイベントを実施していること。
- ・ 衛生統計調査業務  
各種統計業務を円滑に進め、正確かつ迅速な報告に努めた。

#### (3) さらに成果向上に向けた課題（課題がある場合に記載）

- ・ 成人健康診査事業  
胃がん内視鏡検診の受診者数をさらに増加させるためには、指定医療機関を増やすことや受診期間を延長すること等受診体制の検討も必要である。

### 2 問題点の把握と原因分析及び課題の設定

#### (1) 小施策における現状の問題点

- ・ 成人健康診査事業  
様々な周知を行っているものの、がん検診受診率が増加しない現状がある。
- ・ 余熱利用健康増進センター管理運営事業  
当施設は供用開始から15年が経過し、修繕を必要とする設備機器が増えているが思うように対応できていない。

#### (2) 現状の問題点が生じている原因

- ・ 成人健康診査事業  
健康づくりを推進していくためには、市民自らの健康に関する問題意識を喚起することが重要となる。
- ・ 余熱利用健康増進センター管理運営事業  
修繕等に必要な予算を確保できないこと。

### (3) 分析した原因の解決に向けた課題

- ・ 余熱利用健康増進センター管理運営事業  
予防保全を含めた計画的な修繕の必要性，重要性を理解してもらうこと。
- ・ 市民自らが健康を保つ行動につながる動機づけとなる工夫が必要である。

## Step 8 小施策と構成事業の関係性

### 1 小施策との結び付きが弱い，もしくは他の事業と重複していると考えられる事業

玉山地域と盛岡地域において，地域特性により，健康相談，健康教育，成人検診等それぞれの組織で予算を別に持ちながら同様の事業を実施している。

### 2 1で記載した事業についてその理由

類似事務事業を集約することにより，事務の効率化と予算の軽減が図られると考えられる。

### 3 1で記載した事業の今後の方向性（案）（縮小・廃止・統廃合等）

事務量の増加に対応するための人員等の課題もあり，効率化を図る点だけに注目し，改善するのは現状では困難である。

## Step 9 Step 7, 8を踏まえた改革改善案

それぞれの地域特性を踏まえ，住民の意見を取り入れながら，健康づくりに関連する事業を展開していく必要がある。そのためには，サービス低下につながらないよう，職員配置，業務の見直し等検討協議していく必要がある。